

学校だより

やさしい子 たくましい子 考える子

2月号



黒門

発行日 令和5年2月1日

発行者 台東区立黒門小学校

校長 石田 隆

読書活動の充実と電子図書 MottoSokka の導入

副校長 岩崎 公慈

子どもを本好きにするには・・・



左のポスターは「絵本館」という出版社がホームページで紹介し、書店での掲示等を促しているものです。

そこには、子どもを本好きにするステップとして

- (1) 本代としておこづかいをわたす。
- (2) 子どもといっしょに本屋に行く。
- (3) 親も子どもも自由に本をえらぶ。
- (4) 子どもがどんな本をえらんでもけっしてもんくを言わない。
- (5) そして買ってかえる。

と、あります。なるほどもっともだと思いつながら、我が家ではなかなかできていない・・・という反省も感じます。

黒門小学校には本をよく読む児童が多く、下校しようとする際に正門前で本を手になっている姿を見かけ、「歩きながら読むのは危ないからしまっておこう」と声をかけることもしばしばです。

子供の時期に「本を読む」ことは、言葉の習得や心の育成にとって大変重要な役割を果たすと言われています。「読書は心の栄養」という言葉もあり、子供たちに良い読書習慣を身に付けさせたいと考えている保護者の皆様も多いのではないのでしょうか。読書することで

- ・語彙が豊富になるとともに、言葉遣いが学べる。 ・文章表現力が向上する。
- ・多様な考え方に触れることができる。 ・様々な出来事を疑似体験することができる。
- ・想像力が豊かになる。 ・物事への好奇心や憧れがわく。 などの効用が期待できます。

読書は、薦められてすぐ読むようになるわけではありません。ましてや強いられてやるものでもありません。幼いころから習慣として自ら進んで読むようになることが望ましいです。そのためには、身近な読書環境が大切であり、周囲に本があることや本を読んでいる人がいること、読書に接する機会があることなどが重要だと思います。

電子図書で読書の機会がもっと広がる

本校では、読書推進の取組として、電子図書サービス『MottoSokka!』を試験的に導入し、活用しています。11月の使用開始から年末までの2か月弱で3000ページを超える読書をしている児童もいるなど盛況です。デジタル百科事典が自由に見られるサービスを活用して調べ学習を進める姿もあり、新たなメディアの活用方法として定着できればと考えています。ご家庭でも見ることができますので、活用の様子をご覧いただき、ご意見をお聞かせいただければと思います。

一方で、デジタル端末を見続けると目に悪影響を与えるのではないかという心配もあります。日本眼科医会では長時間の注視は、眼精疲労やドライアイを生じる可能性もあり、「画面を30分見たら、20秒以上遠くを見て、目を休ませましょう」と呼び掛けています。『MottoSokka!』では1時間連続して使用していると目を休めるように促すメッセージ画面が出ます。本校でも具体的に呼びかけ、目を休ませるようにさせたいと考えています。